



学校だより 第8号

椎の苗木



木城町立みどりの杜木城学園

令和6年12月16日(月)
文責：教頭 黒木 義昭

力の限り走りきった！～持久走・駅伝ロードレース大会(12/13)～

今年は工事のため運動場が使用できませんでしたが、お隣の町総合運動場で授業を中心に計画的に体力づくりを行ってきました。子どもたちは、それぞれがタイムや順位などの目標をもって取り組むことで、全身の持久力が高まり、最後まで諦めずに走り抜く粘り強さも培われたのではないかと感じています。駅伝では、各学級の代表選手がタスキをつなぎ、9年の2クラスがワンツーフィニッシュで最上級生の意地と誇りを見せてくれました。保護者の皆様もたくさんの応援をありがとうございました。



実りに感謝～5年総合的な学習の時間「もちつき」(12/6)～

5月の田植えに始まった5年生の稻作体験は、秋の収穫を経て、保護者の皆様やJA青年部の方も交えて賑々しくもちをつきました。子どもたちは、最初は重いきねに苦戦していましたが、次第にリズムよくつくことができるようになってきました。ついたおもちをその場で美味しいようにほおばる子どもたち、見守る保護者の皆様、とても微笑ましい光景でした。クラスサポーターの皆様、準備や段取り、ありがとうございました。JA青年部の皆様、稻作体験学習へのご協力ありがとうございました。



スマホ・ネット・ゲームとの付き合い方を考える～学校保健委員会(11/28)～

「このままではいけない・・・。」ある保護者の方のアンケートの言葉です。この講演を聴いた誰もがスマホやネットによる体や心に及ぼす影響の大きさを知り、今後の生活に生かしたいと思うような内容でした。アンケートには、「親子（家族）で話合い」「ルール」という言葉が多く見られました。このテーマに関する情報は、時折学校から発信して注意喚起しています。ご家庭でもぜひ、スマホ・ネット・ゲームとの付き合い方を話し合ってみてください。



講師：糸数知美先生/医師

遊びを通して楽しくふれあい～1年生活科・昔の遊びを体験しよう(12/1)～

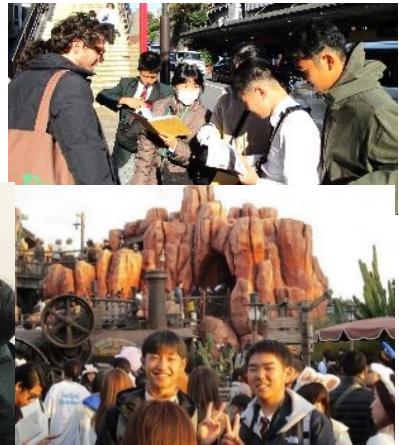
高齢者クラブの皆様ありがとうございました。(他にもかるた、はごいた、だるまおとし、けん玉、竹とんぼをしました。)



学びにあふれた2泊3日

～8年東京修学旅行（12/4・5・6）～

12月とは思えない程の暖かな天候に恵まれ、8年生は修学旅行に行きました。上野での班別自主研修、東京スカイツリー、関東木城会の皆様との交流、東京ディズニーランド、東京グローバルゲートウェイなど、東京ならではのその行程には、「学校でこれまで得た学び（職場体験等）とつなげ、今後の自分やかるさと木城について考える。」というテーマがありました。都会の喧噪や人の多さに圧倒されながらも、勇気を出して外国人観光客に英語で話しかけてみたり、飛行機内のCAさんやホテルの従業員、ディズニーランドのキャスト（従業員）さんの働き方や振る舞いを観察することで、職種や働き方について考えたり、首都圏と木城との違いやよさを肌で感じたりすることができました。また、施設やホテルでの過ごし方もよく、バスの中で一般の方に席を譲るなど公共の場でのマナーもよく、集団行動や時間を考えた行動ができ、質問や声かけなども自発的で、様々な場面で規律よく仲良く楽しむことができました。この2泊3日で得た多くの学びは、8年生のこれからの中学校生活や人生において、有意義で価値あるものになるはずです。



ボルダリング・エアロビックに挑戦～前期課程クラブ活動にて～

令和9年度（2027年度）に宮崎県で開催される国民スポーツ大会において、木城町ではスポーツクライミングとエアロビックが行われます。そこで、3年後のこの大会をさらに盛り上げるために、本校のクラブ活動（4～6年）にこの2つの競技を取り入れ、講師を招いて子どもたちが継続的に体験できるようにしました。初体験の子が多く、実際に動いてやってみて、子どもたちは大喜びでした。



このように厳しい視点で教育について論じられています。

先日、二泊三日の8年生の修学旅行に同行しました。一日目の夕食後のプログラムに関東木城会の五名の方々がホテルに来られての学園生との交流が行われました。木城出身の先輩方から、生々しいこれまでの山あり谷ありの人生について熱く語っていました。学園生にとって初めて聞くこともあり、多くの刺激を受けた本物の時間となりました。学園生には、このように間接経験も含め、直接的な経験を積むことで、これらの時代を生き抜く力をしっかりと身に付けてほしいと願います。私自身も貴重な時間となりました。

（校長）

耕心コーナー　子供たちに必要な能力は：

「子供には、魚を与えるより、魚のとり方を教えよ」という言葉があります。失敗や挫折から学ぶことでの成長は、誰にとても必要です。これからの先行き不透明な時代の中で、必要な能力は何か、それぞれの立場で考える必要があると思います。少なくとも精神的にひ弱な子育てになつていなか、振り返ることは必要なかもしれません。：落合信彦著「無知との遭遇」の一節を紹介します。